

和光市図書館サービス計画進捗状況評価 総括表【R5年度】

基本施策	施策	評価	改善策	基本施策の評価コメント
I 和光らしさを意識した図書館へ	1 図書館を介した学びの機会、和光市の文化を創る	適切	郷土資料のデジタル化に取り組んでいる他市図書館を参考に、担当内でデジタル化にあたっての具体的な方法や、作業などの話し合いをする。	地域資料、行政資料、郷土資料のデジタル化についてもう少し目途を入れて活動を展開して欲しい。 電子書籍の導入については、引き続き財政当局に予算要求をして欲しい。 外国語資料への案内については、職員に聞かなくてもわかるような掲示物を作成するなど、今後検討して欲しい。
	2 資料、情報を収集し、保存し、提供する	概ね適切	電子書籍導入に関して、引き続き予算要求を行っていく。 レファレンスサービスについて図書館だよりで特集を組んだり、図書館ホームページやX(旧Twitter)で紹介する等して周知する。	
II みんなが利用しやすい図書館へ	3 すべての人へ図書館サービスを届ける	適切	障がい者サービスを知ってもらうために、市の担当部署と連携しながら、PRを続けていく。 外国人コミュニティを調査し、直接アピールしていく。 ブックスタートフォローにて健診に来た方へ一人一人声がけをし、アピールをする。	障害者、高齢者に向けて図書館サービスについて情報提供を行うためにも、関係機関や関係者と連携し、必要としている方に届くよう、広報等の周知方法について更なる検討が必要。 また、課題と改善策として、高齢者に関する記載がないため、再検討し、掲載して欲しい。 多様な活動については、図書館職員やボランティアが積み重ね実施してきたことについては、一定の評価ができるが、更なるレベルアップを図ることが出来るよう期待する。
	4 すべての子どもに読書の喜びを届ける	適切	「あかちゃんタイム」について、担当者同士でレパートリーや進行方法を共有して高めあう。その時間は整理日を活用する。 YA対象の市民図書館講座の実施日をYA世代の長期休暇に設定し、全校生徒へチラシを配るなど積極的なアピールをしていく。	
III 居心地の良い図書館へ	5 交流の場、居場所を創る	概ね適切	令和6年度に市内の学校読み聞かせボランティアをしている方、これから始める方向けの読み聞かせボランティア養成講座を開催する。市内各小中学校に協力をお願いし、各校2名は養成講座に参加してもらい、読み聞かせボランティア全体の技術の向上を計る。	交流の場、居場所創りについては、まだまだ可能性が多いことから、本と利用者、更には本を媒介とした利用者同士を結びつけていくことができるような場を提供して欲しい。 職員の資質向上のためにも、司書資格取得率を高めるよう、支援をお願いしたい。 また、施設の老朽化については、制約された環境下でそれを補う形で様々な図書館活動を引き続き行って欲しい。 さらに中長期的な展望を持つことを期待する。
	6 サービスを提供する基盤を整備する	適切	引き続き図書館施設の改修及び整備に努めていく。 緊急的な修繕工事が出た場合は、補正予算を組むなど、図書館利用に影響が出ないように対応をしていく。 新館建設の検討に関しては、市各部署と情報を共有していく。	

基本施策 I

和光らしさを意識した図書館へ

学びをつくる、
知る、

【施策 I】

図書館を介した学びの機会、和光市の文化を創る

- (1) 地域特性に目を向け、課題を発見するお手伝いをし、地域の方とともに文化を創る。
- (2) 地域資料と情報
【地域・行政資料の収集・保存・提供、市民に役立つ情報の提供】

事業の概要	(1) 地域特性に目を向け、課題を発見するお手伝いをし、地域の方とともに文化を創る。 ・地域を知り、課題を発見する ・地域の文化を創る
事業の成果	<u>地域を知る事業</u> ・本館では、和光市の郷土作家で風研究家の新坂和男氏にちなみ、市内の小学生親子を対象に風作り講座を実施した。講座の実施に併せて新坂氏の資料、風、絵画の展示を行い、地域の方々に和光市の郷土作家について知ってもらう機会を作った。 ・分館では、和光市史（平成版）出版にあたり、編纂に携わった人材を活用して「楽しく学ぶ和光市史から読みとく和光市の歴史」を3回実施した。和光市の歴史について学ぶ内容として「和光市史って何だろう？」「和光市の原始・古代」「和光市の誕生と現在までのあゆみ」を行い、地域の歴史、文化を学ぶ機会を作った。
事業の概要	(2) 地域資料と情報 【地域・行政資料の収集・保存・提供、市民に役立つ情報の提供】
事業の成果	<u>地域・行政資料の収集・保存・提供</u> ・市が発行した計画等を郷土資料として保存し、各課より依頼のあったパブリックコメントの募集や資料の掲示は館内掲示板で周知した。また、市民が所有している郷土資料は「和光市図書館地域資料収集方針」に基づき、寄贈等による受け入れを行い、資料の収集・保存・提供を行った。 ・市内団体が開催するイベント及び市内施設を会場とするイベントのチラシの配架やポスターの掲示を行うほか、郷土資料として当該資料のファイル保存を行い、市民に役立つ情報の提供を行った。 ・「和光市デジタルミュージアム」と連携し情報の提供を行った。

	ひとハコ図書館 ・市民や市内で活動する個人または団体を対象に、自身の活動のPRができる「みんなのひとハコ図書館」を実施し、市内の地域情報の発信をした。(展示団体: 学校図書館アドバイザー、広沢小学校図書委員会、株式会社ピーカブー、十文字学園女子大学教育人文学部文芸文化学科石川ゼミ、大和中学校図書委員会、新倉小学校図書委員会)	
事業の課題と改善策	【課題】 ・地域課題のニーズを把握する。 ・郷土資料のデジタル化について検討していく必要がある。 【改善策】 ・郷土資料のデジタル化に取り組んでいる他市図書館を参考に、担当内でデジタル化にあたっての具体的な方法や、作業などの話し合いをする。	
図書館による評価 (自己評価)	適切に行っている。郷土・行政資料の収集・保存については、行政資料や、市内団体からの発行物などを確認し、また、市役所各課に寄贈資料の呼びかけを行っている。 基本的に郷土資料は除籍しない方針だが、キャパシティが限界のため、収集や除籍に関する基準を策定し、適切に管理することができた。	
図書館協議会による評価 (外部評価)	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】 地域資料、行政資料、郷土資料のデジタル化についてももう少し目途を入れて活動を展開して欲しい。

基本施策Ⅰ

和光らしさを意識した図書館へ

学びをつくる、
知る、

【施策2】

資料、情報を収集し、保存し、提供する

- (1) 魅力ある蔵書構成で新たな利用者を獲得
- (2) 電子書籍【電子書籍導入の検討】
- (3) レファレンス（参考調査）サービスの活用

事業の概要	(1) 魅力ある蔵書構成で新たな利用者を獲得 ・魅力ある蔵書
事業の成果	蔵書の充実 ・選書会議を定期的に行い、収集方針に基づき、リクエスト資料や買替資料等を含めた選書を行い、蔵書の充実に努めた。また、未所蔵の資料については他の図書館から借用し、利用者の要望に応えた。 ・一般書、児童書の購入割合については予算に準じて購入している。また、洋書やバイリンガル図書、障害者用の図書、参考図書等もバランスよく購入するとともに、洋書・漫画・視聴覚資料については購入前にアンケート調査を実施し、利用者ニーズを把握することができた。 ・参考図書については、利用者からのリクエストやご意見を積極的に選書会議に反映させた。また、児童用の参考図書で、新版・改版が出た辞書類を積極的に購入した。 ・外国語資料は主にリストやインターネット等の情報を元に選書してきたが、令和5年度は書店で現物を見て選書を行うことができた。事前に利用者や学校関係者等への購入希望アンケート調査も実施していたことから、需要のある分野の本や、リストには載っていない良書を見つけることができた。事業等でも紹介し、活用している。 ・YAコーナーではアニメ化されたライトノベルを購入したり、進路や職業選択に役立つような図書を購入する等、10代の利用者に訴えかけられるような選書を行い、より魅力的な蔵書とした。 資料提供体制の充実 ・大活字本のコーナーを新たに増設した。 ・これまでの乳幼児向けの読み聞かせ絵本のコーナーとは別に、新たに本館・分館に「小学生のための読み聞かせおすすめ本」コーナーを設置した。対象学年別にシールを貼って分けて配架し、小学校での読み聞かせ

	を行っているボランティアや、自宅での読み聞かせを行っている人が本 選びをしやすい環境を整備した。 ・収集方針に基づき除籍した資料については、リサイクル資料として提 供した。	
事業の概要	(2) 電子書籍【電子書籍導入の検討】	
事業の成果	・近隣3市との連絡協議会で導入状況、利用状況、課題等意見交換を 行った。	
事業の概要	(3) レファレンス(参考調査)サービスの活用 ・レファレンス(参考調査)サービスのPR	
事業の成果	<u>レファレンスサービス</u> ・カウンターだけではなく、電話でのレファレンスも積極的に行った。令和 5年度は13件の電話でのレファレンスに回答した。 ・分館では、新たなパスファインダーを作成し、レファレンスサービスや調 べ学習の充実に努めた。 <u>レファレンス協同データベース</u> ・現在、国立国会図書館レファレンス協同データベースに23件の調べ方 マニュアルを公開している。積極的にデータ登録を行っていることが評 価されて令和4年度に企画協力員賞を受賞したこともあり、その被参照 数は令和4年度は4,396件だったが、令和5年度は9,939件と2倍以上 増加した。	
事業の課題と 改善策	【課題】 ・電子書籍導入に関する予算要求を財政当局に行ったが、不採択に至 った。 ・日々受けるレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同デー タベースに積極的に登録、蓄積し、レファレンスサービスの向上に励んできた が、それを利用者へうまくPRできていない。 【改善策】 ・電子書籍導入に関して、引き続き予算要求を行っていく。 ・レファレンスサービスについて図書館だよりで特集を組んだり、図書館 ホームページやX(旧 Twitter)で紹介する等して周知する。	
図書館 による評価 (自己評価)	概ね適切に行っている。図書資料等の収集・保存については、引き続 き図書館資料収集方針に則り、適切な資料収集を行っていく必要がある。	
図書館協議会 による評価 (外部評価)	1 適切である <u>2 概ね適切である</u> 3 不十分である	【評価コメント】 電子書籍の導入については、引き続き財政当局 に予算要求をして欲しい。 外国語資料への案内については、職員に聞かなく てもわかるような掲示物を作成するなど、今後

	検討して欲しい。
--	----------

基本施策Ⅱ

みんなが利用しやすい図書館へ

資料と市民を
つなぐを

【施策3】

すべての人へ図書館サービスを届ける

- (1) 図書館サービスのPR【利用者拡大への働きかけ、利用案内】
- (2) 障害者サービスの充実
- (3) 高齢者へのサービス
【高齢者向け資料の充実、認知症にやさしい図書館、
ホームページの利用の案内】
- (4) 国際理解、外国人の暮らしに役立つサービス

事業の概要	(1) 図書館サービスのPR【利用者拡大への働きかけ、利用案内】 ・利用者拡大への働きかけ ・利用案内
事業の成果	<u>図書館サービスのPR</u> ・本館、分館でのブックスタートに加え、来館が困難な方や対象日に参加できなかった方へのフォローとして、北子育て世代包括支援センター、北第二子育て世代包括支援センター、南子育て世代包括支援センター、和光市総合児童センターで出張ブックスタートを実施した。 また、令和5年9月から、健康増進センターで10か月健診日にブックスタートフォローを実施した。市内公共施設で出張ブックスタートやブックスタートフォローを実施することで、自宅が図書館から遠い方やまだ図書館を利用したことがない方に向けて図書館サービスをPRし、図書館利用者拡大への働きかけを行った。 (本館) ・10月28日(土)29日(日)に図書館まつりを開催した。和光市図書館開館40周年記念ということで、「柳家緑也落語会」を開催し、また「開館40周年記念メッセージボード」の掲示や40周年記念で作成したクリアファイルを来館者に配布した。おはなしの会や影絵づくり、布絵本の展示(しおりづくり)、「東京メトロ」子ども制服撮影会、写真展、本のリサイクル、バルーン配布等を行い、保護者や子どもに楽しんでもらえた。 (分館) ・下新倉分館、下新倉児童館、下新倉学童クラブ共催のふれあいまつりを4年ぶりに開催し、おはなし会とバルーン配布を行った。 ・下新倉小学校、下新倉児童館、下新倉学童クラブ、周辺自治会と協力して、下新倉地域のおまつりとして下新倉サマーフェスタを開催し、分館は「図書館の紙芝居屋さん」を行った。

	情報発信 ・図書館だよりを12回発行し、市内各施設や市内高校に設置した。 ・図書館ホームページ、図書館X(旧Twitter)で情報を発信した。 ・エキアプレミエ(和光市駅の商業施設)発行の冊子に図書館の情報を掲載した。 利用案内 ・利用案内については、窓口や電話で利用者からの問い合わせが多い項目をより詳しく記載し、また、新たに導入した「Web利用者カード」について記載した。市内循環バスの路線変更に伴い、案内地図をわかりやすくリニューアルした。
事業の概要	(2) 障害者サービスの充実 ・図書館内の障害者サービスの充実 ・図書館外の障害者サービスの充実
事業の成果	障害者サービス ・今年度は、郵送貸出サービスは15件、対面朗読サービスは4件、デジ再生機貸出サービスは3件と、それぞれ利用する人が徐々に増えており、障がい者サービスの新規登録が1件あった。また、対面朗読を行っていただくボランティアに向けての音訳者養成講座も引き続き年6回行っており、レベルアップに努めていただいている。 ・対面朗読、郵送貸出サービスについてPRする名刺サイズの手紙を作成し、配布を行った。 ・りんごの棚に設置している資料のリストを作成し、利用促進を図った。 啓発展示 ・10月のディスレクシア月間に合わせて、本館と分館で関連書や録音図書、LLブック等の展示を行い、ディスレクシアやLDという障害について理解を広めるきっかけ作りを行った。図書館X(旧Twitter)での発信も行ったところ表示回数が5,000回を超え、当事者家族からの反響もあった。
事業の概要	(3) 高齢者へのサービス 【高齢者向け資料の充実、認知症にやさしい図書館、ホームページの利用の案内】
事業の成果	高齢者向け事業 ・本館では、市民図書館講座「認知症予防のための図書館利用術」を実施した。認知症に関する基礎知識や図書館を利用して認知症予防を行う方法を学び、また脳トレクイズや脳を刺激する簡単な運動を実践し、普段図書館を利用していない高齢者の図書館利用を促した。 ・分館では、市民図書館講座「どこでもだれでも簡単に！体操・ストレッチでリフレッシュ」を実施した。簡単にできるストレッチや口腔体操で身

	体を動かす楽しさを感じてもらうとともに、健康づくりに役立つ情報や資料などを紹介し、認知症予防、高齢者向けサービスを図った。 認知症にやさしい図書館 ・職員研修として「認知症サポーター養成講座」を行った。認知症の方への対応の仕方を学び、認知症への理解を深めた。 ホームページの利用の案内 ・「図書館の本をスマホでらくらく予約しよう」講座は、1対1の対面方式で、インターネット予約に関して参加者が納得するまで説明を行った。日常業務でも講座と同様の案内を行った場合は記録している。(レファレンスカウンター受付総数37件)質問内容から図書館ホームページの改善点を見つけて改訂に活かすことができた。講座の参加者はインターネットに不慣れな方が多いため、講座回数を増やすなど対策を検討していく。 ・今年度は、国の補助金事業を活用し、65歳以上を対象としたスマートフォン講習会を行った。3日間通した講習会とし、講習内容は電話、メールの使い方やアプリの使い方及びLINEの使い方など、基本操作を中心としたものを行った。
事業の概要	(4) 国際理解、外国人の暮らしに役立つサービス ・役立つ資料の充実
事業の成果	国際理解についての事業 (本館) ・ボランティアサークル「Wonder Club」による英語絵本の読み聞かせを4回行った(「図書館まつり」での開催を含む)。英語絵本の読み聞かせだけではなく、英語の歌を歌って、振付を皆で覚えて踊り、親子で楽しんでもらえた。歌を歌うときに「Wonder Club」のメンバーが「この歌はこういう歌です。」と、歌の背景にある外国の文化を教えてくれるので、子ども達の国際理解のきっかけ作りにもなった。 (分館) ・令和4年度に新規事業として開始した下新倉分館での英語おはなし会「Peek'n See!」の開催回数を、令和5年度は1回から3回に増やした。英語絵本の読み聞かせだけでなく、外国の様々な文化を紹介し、関連本の展示や工作も行い内容も充実された。毎回定員以上の参加申込を受け、リピーターが多く人気事業となっている。 サービスの充実 ・分館の「洋書コーナー」を、外国語資料のほかに日本での生活に役立つ資料や日本語を学ぶための資料等を集めた「多文化コーナー」へと発展させた。新しい外国語資料を開架する際には、本の紹介ポスターを作成して図書館内に掲示し、更に図書館ホームページや図書館Xで発信し

	た。 ・令和5年度から、ブックスタートへの外国人親子の参加率向上のため、やさしい日本語版のポスターとチラシを作成し、保護者が外国人の家庭に送付するチラシを令和5年10月以降やさしい日本語版に切り替えた。図書館ホームページにも掲載して周知を行った。 ・市内小学校への外国人児童の入学や転入が増え、学校から具体的な言語を指定した外国語資料の購入依頼が増えてきている。令和5年度は新たにアラビア語、ネパール語の児童書を購入した。 ・国際交流会の方、市内在住の外国人の方のインタビューを実施し、市内在住の外国人向けのサービスについてのアドバイスをいただいた。 事例発表 ・和光市図書館の多文化サービスが一定の評価を受け、令和5年11月に開催された文部科学省・埼玉教育委員会が主催する「令和5年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修」で事例発表を行った。	
事業の課題と改善策	【課題】 ・障害者サービスについては、利用されている方が限定的な面があり、また現在の登録者数も17件となっており、図書館の障がい者サービスが知られていないのが現状である。 ・市内に住む外国人への洋書コーナー、多文化コーナーのアピールが十分でない。 ・引き続き、利用者拡大の働きかけをしていく必要がある。 【改善策】 ・障がい者サービスを知ってもらうために、市の担当部署と連携しながら、PR を続けていく。 ・外国人コミュニティを調査し、直接アピールしていく。 ・ブックスタートフォローにて健診に来た方へ一人一人声がけをし、アピールをする。	
図書館による評価 (自己評価)	適切に行っている。 なお、図書館サービスについては、引き続き各サービスについての PR を続けていく。	
図書館協議会による評価 (外部評価)	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】 障害者、高齢者に向けて図書館サービスについて情報提供を行うためにも、関係機関や関係者と連携し、必要としている方に届くよう、広報等の周知方法について更なる検討が必要。 また、課題と改善策として、高齢者に関する記載がないため、再検討し、掲載して欲しい。

基本施策Ⅱ

みんなが利用しやすい図書館へ

資料と市民をつなぐ

【施策4】

すべての子どもに読書の喜びを届ける

- (1) 本と出会うきっかけづくり
【乳幼児と保護者が本に親しむきっかけづくり、青少年（中高生含む）が本に親しむきっかけづくり】
- (2) 第4次和光市子ども読書活動推進計画の推進

事業の概要	(1) 本と出会うきっかけづくり 【乳幼児と保護者が本に親しむきっかけづくり、青少年（中高生含む）が本に親しむきっかけづくり】
事業の成果	<u>乳幼児～小学生向け事業</u> 「ブックスタート」 ・生後4か月のあかちゃんと保護者を対象に絵本の読み聞かせやわらべうた、図書館のあかちゃん向け事業の紹介を行った。その場で図書利用券の作成もできるので、ブックスタート参加後に本を借りて帰る方もいた。はじめて図書館を利用した方も多く、乳幼児と保護者が本に親しむきっかけづくりに繋がった。 - また、ブックスタートへの参加をきっかけに「あかちゃんタイム」や「あかちゃんと楽しむ絵本をわらべうた」等他の図書館事業への参加にも繋がった。 ・分館では、従来の申込方法にLINEでの申し込みを追加し、申し込みしやすい環境を整えた。 ・さらに、来館が困難な方や対象日に参加できなかった方へのフォローとして、令和5年9月より健康増進センターで10か月健診実施日に「ブックスタートフォロー」を行い、まだ絵本を受け取っていない方へ絵本をお渡しした。 「あかちゃんと楽しむ絵本とわらべうた」 ・新型コロナウイルス感染症が5類に引下げられたことを受け、定員制を撤廃し参加しやすい環境を整えた。（事前申し込みのみ継続） - また、本館・分館とも来年度に向けての利用者アンケートを実施し、事前申込制の有無やマスクの着用についての検討を行った。 「あかちゃんタイム」 ・乳幼児とその保護者の『絵本やわらべうたとの出会いの場、及び交流

の場』を提供した。当事業は申し込み不要・出入自由とし、興味を持たれた全ての方を受け入れている。プログラムにゆとりがある場合は参加者のリクエストに応じたり、好評だった題目のアンコールを行うなど柔軟に対応し、あかちゃんが心地よく過ごせるように工夫した。

参加者交流の面では、話が弾むように職員から話題を投げかけたり、個別に読書相談にのるなど、育児に関する情報収集や本に関する疑問点を解消できるようにアプローチをした。また、あかちゃん事業に興味を持つ層へのダイレクトPRとして、おはなし会の結びの挨拶では他のあかちゃん事業への参加も呼びかけている。また、X(旧Twitter)での告知も開始した。令和5年度からは読み手に加えて記録もカウンター担当職員が加わり、担当者全員で順番に担当している。

「土曜のおはなし会」

・読み聞かせ経験豊富なボランティア団体による、第1～3土曜日のおはなし会に加え、季節感のある「七夕おはなし会」「クリスマスおはなし会」を実施し、多くの親子に絵本の読み聞かせを楽しんでもらった。小学生以上を対象とした「世界おはなしめぐり」では、外国の物語によって子どもたちの想像力を養うとともに、異文化への興味、関心を高める機会となった。

「子どもの科学」

・小学生を対象に本館・分館あわせて3回実施した。テーマにそった科学遊びのあと、優れた科学読み物を紹介して貸出を行った。

「ぶっくわーど」

・小学生を対象に本館・分館あわせて3回実施した。本に関しての造詣が深い講師を招いて良書を紹介してもらった。参加した児童は、普段読まないようなジャンルの本にも興味を示してくれて、講師が紹介した本をたくさん借りていってくれた。この流れを次年度にも繋げていきたい。

「夏休み宿題教室」

・市内小中学校の教員の5年次研修として、読書感想文等の児童の宿題サポートやカウンター業務、推薦図書の紹介文作成等を行ってもらい、図書館の役割や図書館と学校の連携について相互理解を深めた。

「土曜えほんタイム」(本館)

・第4、第5土曜日に本館にて実施し、本と子ども達が出会う場を提供した。読み聞かせした絵本は借りて帰ることができるので、子ども達が好きな絵本を選んで借りて帰る姿が見られた。

「図書館のおしごと体験」(本館)

・市内小学校4～6年生を対象にを実施した。本探しや普段はできないカウンターでの貸出返却業務を体験してもらうことで、図書館を身近に感じてもらうことができた。

	「夏休み子どものつどい」(本館) ・普段からよく図書館に来てくれている子どもだけでなく、なかなか図書館に足を運ばない子ども達にも図書館に来てもらいたいということで開催した。3つのボランティアサークル協力のもと、普段の読み聞かせでは行わない影絵やパネルシアター等を行った。 「絵本とおはなしの会」(分館) 第2土曜日(年8回)に実施し、本と子ども達が出会う場を提供した。 「ひまわりおはなし会」(分館) ・引き続き下新倉分館と下新倉児童館での交互開催を行うことで、普段図書館を利用していない児童館利用者や、下新倉学童クラブの児童にも本との出会いの場を提供した。 「ぬいぐるみのおとまり会」(分館) ・ぬいぐるみと一緒に話を聞いたあと、館内を見学。預かったぬいぐるみが館内で過ごす様子を写真に撮り、お迎え時にアルバムをつくった。図書館に親しみを持ってもらうことができた。 「夏休み自由研究のタネ」(分館) ・「司書体験」も実施し、児童が図書館の業務を行うことで図書館を身近に感じてもらうことができた。 「市民図書館講座クリスマス工作」(分館) ・講師による季節の飾り切りの講座と職員による絵本の読み聞かせ、関連本の展示を行った。親子で参加して楽しんでもらうことができた。 中高生向け事業 「ビブリオバトル」(本館) ・市内中学生にバトラー(発表)を、和光国際高校の生徒にデモンストレーションをしてもらうことで、本を読んだ感想を語り合い、青少年が本に親しむきっかけづくりを行った。 ・市民図書館講座を開催し、「ボードゲーム作り」や作成したボードゲームの試遊および既存ボードゲームのプレイを行った。子どもから大人まで様々な年齢の初対面の参加者同士でプレイしたことにより、ボードゲームを通して交流を深めた。また、ボードゲーム関連本を展示し、本を読むきっかけを作った。 「図書館クラブ」(分館) ・お楽しみ読書バッグづくり」として、英字新聞のエコバッグとおすすめ本を選んでタグを作成した。
事業の概要	(2) 第4次和光市子ども読書活動推進計画の推進 ・3つの基本方針に基づく計画の推進
事業の成果	・環境整備、連携、啓発の観点から、図書館アドバイザーに対しては、年3回行われている定例研修会の他に、図書館で開催している職員研修

	会への参加を促した。 ・各学校で活動する保護者ボランティアに向けては、学校図書館アドバイザーと連携して図書館で開催する「ボランティア交流会」への参加を呼び掛けた。昨今読み聞かせボランティアとの連絡はメール等で行っている学校が多いため、紙のチラシだけではなく、令和5年度からはチラシの電子データも学校に提供して連絡しやすい環境を整えた。 ・下新倉分館においては隣接する下新倉小学校と連携し、引き続き朝の読み聞かせへの図書館職員の参加や、授業内での図書館利用、休み時間貸出、長期休暇（夏休み・冬休み）前の図書の貸出、テーマ本（調べ学習授業用）の他に依頼テーマ資料の月間貸出、教員向けとして職員室への教育関連資料の貸出を実施し、読書に親しむ機会や場の提供を行った。 また、学力向上に向けての取組として、過去の子ども新聞・中学生新聞の貸出、小学生のための調べかた案内と情報ファイルの提供などを行い、図書資料を使った学習活動の推進を図った。	
事業の課題と改善策	【課題】 ・「あかちゃんタイム」について、おはなし会の内容は大まかに均一化されている。しかし他の担当者がどのような会を持っているか、実際に見る事が難しい。 ・YA 対象の市民図書館講座は YA 世代が部活動や、勉強などで忙しく講座の題材によっては参加が難しいことがある。 【改善策】 ・「あかちゃんタイム」について、担当者同士でレパートリーや進行方法を共有して高めあう。その時間は整理日を活用する。 ・YA 対象の市民図書館講座の実施日を YA 世代の長期休暇に設定し、全校生徒へチラシを配るなど積極的なアピールをしていく。	
図書館による評価（自己評価）	適切に行っている。 「あかちゃんタイム」については、ベビーシッターに参加するように指示を出した親がいたり、終了後に複数の母親が次回会う約束を取り付けている姿が見られ、地域に受け入れられている。『アットホームなおはなし会と子育て世代の交流』を売りにしているが、もう少しコンスタントに参加者が増えるように努力をしたい。また、担当者の技量に依る所が多いイベントなので、常に自己研鑽を行っていく。	
図書館協議会による評価（外部評価）	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】 多様な活動については、図書館職員やボランティアが積み重ね実施してきたことについては、一定の評価ができるが、更なるレベルアップを図ることが出来るよう期待する。

基本施策Ⅲ

居心地の良い図書館へ

資料と人との
出会いの

【施策5】

交流の場、居場所を創る

- (1) 居場所としての図書館【設備の改善・充実、居場所づくり】
- (2) 本を通じた出会いの場、図書館
【出会いの仕組みづくり、利用者が本の感想等を発信】
- (3) 地域活動との連携
【地域で活動する団体・企業・商店・関連施設・公共施設との連携、読み聞かせなどのボランティア支援】

事業の概要	(1) 居場所としての図書館【設備の改善・充実、居場所づくり】
事業の成果	・令和5年度より、中高校生を対象に、テスト期間前の土曜日、日曜日、祝日の事業がない時間帯に会議室を自習室として開放した。また、夏休みには対象を広げ、会議室が空いている日に限り、小学生から高校生へ会議室を自習室として開放し、子どもたちの居場所づくりを行った。
事業の概要	(2) 本を通じた出会いの場、図書館 【出会いの仕組みづくり、利用者が本の感想等を発信】
事業の成果	<u>本を通じた出会いの場</u> 「図書館シネマ」(本館) ・DVD上映会を行った。(大人向け、子ども向け各一日)様々な文化活動の場として、図書館を広く利用して頂くことで、身近な場所であると市民に感じてもらうことを目的として行い、参加者から高評価を得た。 「大人のための朗読劇場」(本館) ・本館で2回、朗読のボランティアサークル「朗読の会あめんぼ」により開催した。質の高い朗読劇を見ることで朗読や読書への関心を高めてもらうことを目的とした事業だが毎年大好評で、終了後には関連図書が借りられていく等の効果が見られている。 「本の福袋」 ・本館は、合計23セット(幼児～大人向け)作成し貸出をした。令和5年度に初めて利用者に向けて福袋に入りたい本の募集を行い、3名の応募があった。今後も利用者参加型を推進していく。 ・分館は、合計42セット(幼児～大人向け)を作成し貸出をした。そのうちの9セットは、図書館クラブ事業で中高生が作成した。 「ビブリオバトル」(本館) ・市内中学生にバトラー(発表)を、和光国際高校の生徒にデモンストレーションをしてもらうことで、本を読んだ感想を語り合い、人と人とのつ

	ながりができる場を提供した。 「おとなの朗読会」(分館) ・定員を25名まで増員し開催、本と人が出会う場を提供した。(年3回実施) ・図書館サポーターの集まりとして6月に読書会を開催し、本を通じた出会いの場を提供することができた。ファシリテーターとして、前年度のボランティア交流会に参加された方とつながりができ、この方に読書会を進行していただいた。
事業の概要	(3) 地域活動との連携 【地域で活動する団体・企業・商店・関連施設・公共施設との連携、和光市立小・中学校地域学校協働本部との連携、読み聞かせなどのボランティア支援】
事業の成果	<u>ボランティア支援・和光市立小・中学校地域学校協働本部との連携</u> 「ボランティア交流会」 ・図書館で活動している団体によるデモンストレーションを新たに取り入れ、普段は見ることのない他団体の活動を実際に見る機会を作った。刺激を受けた参加者が他の読み聞かせ活動に参加し始めるなど、新たな結びつきを生み、ボランティア活動の活発化に繋がった。 「読み聞かせボランティア養成講座」 ・読み聞かせの基礎と実践について学んでもらい、講座後は図書館の新規読み聞かせボランティアが増加した。また、和光市立小・中学校地域学校共同本部と連携し、講座終了後に市内小中学校での読み聞かせボランティアを募ったところ、複数の希望があり、市内小中学校で読み聞かせボランティアの増加にも繋がった。さらに、講座参加者が市内小中学校読み聞かせボランティアの自主勉強会を立ち上げるなど、読み聞かせボランティア支援に繋がった。 <u>地域活動との連携</u> 「民話と音楽で世界旅行～図書館から広がる知の冒険」(本館) ・十文字学園女子大学との共催による朗読とミニコンサートを行った。また、文芸文化学科石川ゼミの学生の取組で、ひとハコ図書館として、世界の民話や歌に関連した本を展示した。 「ひまわりおはなし会」(分館) ・引き続き複合施設内の下新倉児童館と下新倉学童クラブと連携し、児童館と交互開催を行い、児童館来館者や下新倉学童クラブの児童が参加した。 ・下新倉小学校での朝の読み聞かせが令和5年1月より再開し、令和5年度は分館の職員が月に2回各2名ずつ協力した。教職員や児童、保護者との交流の機会にもなっている。

	・下新倉小学校からの要望により、児童の学力向上に向けての新たな取組として、令和5年10月から毎週水曜日に分館から過去の読売こども新聞と中高生新聞の貸出を開始した。児童が資料を理解し考えをまとめる力を付けることを目的とし、連携を行っている。 ・ボランティア交流会の実施や、ひとハコ図書館として市内で活動する団体の展示活動を行っていること等が評価され、令和5年11月に埼玉県教育委員会優良教育施設として表彰された。 ・市内企業ピーカブーから本の寄贈を受け、関連したテーマの展示を行った。(本館、分館) 市役所との連携 ・都市整備課「立地適正化計画」オープンハウス(分館) ・市民活動推進課消費生活担当と連携し、県政出前講座「化学物質と私たちの暮らし」を図書館会議室で開催し、関連パネル「身の回りの化学物質を調べよう」の展示を行った。(本館) ・市民活動推進課消費生活担当のパネル展示「ジェンダーギャップ指数116位の現実」(分館)、「食品の安全」(本館) ・健康支援課「がん検診、健康づくりの意識啓発」テーマ本展示(本館、分館) ・健康支援課「こころの健康づくり」テーマ本展示(本館、分館)	
事業の課題と改善策	【課題】 ・既に市内小中学校で読み聞かせボランティアとして活動している方の大半が独学で読み聞かせについて学んでいるため、技術にばらつきがある。読み聞かせの基本的な技術や、なぜ読み聞かせをするのかなどを知らない方が多いため、読み聞かせボランティア全体の技術の向上が必要と思われる。 【改善策】 ・令和 6 年度に市内の学校読み聞かせボランティアをしている方、これから始める方向けの読み聞かせボランティア養成講座を開催する。市内各小中学校に協力をお願いし、各校 2 名は養成講座に参加してもらい、読み聞かせボランティア全体の技術の向上を計る。	
図書館による評価 (自己評価)	概ね適切に行っている。学校・地域やボランティアと連携するなど、資料と利用者の出会いや、人と人とのつながりの場を提供することができた。	
図書館協議会による評価 (外部評価)	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】 交流の場、居場所創りについては、まだまだ可能性が多いことから、本と利用者、更には本を媒介とした利用者同士を結びつけていくことができるような場を提供して欲しい。

基本施策Ⅲ

居心地の良い図書館へ

資料と人との
出会いの

【施策 6】

サービスを提供する基盤を整備する

- (1) 本館老朽化への対応【新館建設の検討、大規模修繕】
- (2) 職員研修【図書館サービスに関する専門的な研修】
- (3) 図書館運営の点検評価【図書館協議会】

事業の概要 事業の成果	(1) 本館老朽化への対応【新館建設の検討、大規模修繕】 ・令和6年2月に故障による空調機交換工事を、補正予算を組んで行った。 ・令和6年2月、女子トイレの洋式便器から水があふれたことにより、階下にあるサミット株式会社コルモピアシーアイハイツ和光店の商品が水にぬれ、さらに天井パネルへ染みが付着する損害を与えたため、水漏れが階下にいかないよう、トイレ床のコーキング処理を行った。 ・令和6年度は、多目的トイレの改修工事を行う予定である。 ・新館建設場所については、市の施設担当や他部署と連携をしながら検討している段階である。
事業の概要 事業の成果	(2) 職員研修【図書館サービスに関する専門的な研修】 ・職員研修として「認知症サポーター養成講座」を行った。認知症の方への対応の仕方を学び、認知症への理解を深めた。 ・「全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー」の福田孝子氏を講師に招き「現代における学校図書館の役割」という講座を開催した。参加者は市内学校教諭、学校図書館の図書館アドバイザー、和光市図書館本館及び分館の職員の併せて49名だった。「学校図書館とは本来、どういうところか。」「そこで働く職員は常に何を心がけるべきか。」等ということを学んだ。 ・児童サービス研修、公共図書館職員研修、公共図書館長研修、障害者サービス研修、参考調査研修、地域資料研修等計画的な職員研修を実施し、図書館サービスに関する知識を深めることができた。またオンライン研修等、職員が自主的に研修に参加し、スキルの向上が図られた。特に、著作権に関する研修を多くの職員が受講したことで、複写サービスを見直す機運が高まり、管理運営規則を改正してサービスを改善することにつながった。

事業の概要	(3) 図書館運営の点検評価【図書館協議会】	
事業の成果	・令和5年度は、図書館協議会委員の改選の年であったため、委員の選定に関しては、図書館協議会委員選定要領等に基づき、選定を行った。第1回は、第2次図書館サービス計画の最終年度だったこともあり、令和4年度の評価及び5年間の総評価を行い、それを審議してもらった。2回目は、新委員となって1回目であったため、これからの図書館のあり方についての諮問をし、2年間にわたって審議してもらうこととなった。 図書館協議会の審議内容は図書館ホームページ、市のホームページに掲載し、市民への周知を図った。	
事業の課題と改善策	【課題】 ・本館は開館から40年以上が経過しており、館内の至る所に老朽化の影響がみられる。そのため、現有施設設備を維持していくことが重要である。 ・図書館は他の商業施設との共有建物となっており、共有部分に関しては、他の商業施設との連携を取りながら、修繕工事を進めていく必要がある。 ・新館建設の検討に関しては、和光市という狭い土地の中で場所を確保していくためには、市各部署と連携とりながら進めていく必要がある。 【改善策】 ・引き続き図書館施設の改修及び整備に努めていく。 ・緊急的な修繕工事が出た場合は、補正予算を組むなど、図書館利用に影響が出ないように対応をしていく。 ・新館建設の検討に関しては、市各部署と情報を共有していく。	
図書館による評価 (自己評価)	適切に行っている。図書館施設等の保全については、予防的保全にかかる予算を確保することが困難であるため、施設・設備に修繕等の必要が生じた際は、その都度補正予算等で対応せざるを得ないのが現状である。施設の老朽化による影響が随所に見られるため、現状の状態を維持及び新館建設を具体的に検討していく。	
図書館協議会による評価 (外部評価)	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】 職員の資質向上のためにも、司書資格取得率を高めるよう、支援をお願いしたい。 また、施設の老朽化については、制約された環境下でそれを補う形で様々な図書館活動を引き続き行って欲しい。 さらに中長期的な展望を持つことを期待する。

和光市図書館サービス計画進捗状況評価 総括表【R6年度】

基本施策	施策	評価	改善策	基本施策の評価コメント
I 和光市らしさを意識した図書館へ	1 図書館を介した学びの機会、和光市の文化を創る	適切	郷土資料のデジタル化に取り組んでいる他市図書館を参考に、担当内でデジタル化・パスファインダー作成にあたっての具体的な方法や、作業などの話し合いをする。	本施策について、着実な図書館活動の積み重ねをみることができ、評価できる。地域資料、郷土資料などは、和光市の文化を創るという意味において、図書館が関わる可能性を大いに秘めていることから、持続的かつ積極的に活用して欲しい。 電子書籍の導入については、非来館者の利用も望め、読書普及への期待もあるため、引き続き財政局に予算要求をして欲しい。 来館者が質問しやすいように、今まで和光市図書館が解決したレファレンス事例を掲示するなど、来館者の興味・関心など背中を押すような仕掛けがあってもよい。
	2 資料、情報を収集し、保存し、提供する	概ね適切	電子書籍導入に関して、引き続き予算要求を行っていく。レファレンスサービスについて図書館だよりで特集を組んだり、図書館ホームページやX(旧Twitter)で紹介する等して周知する。 図書館見学に来館した小学生や職場体験に来た中高生、インターンの大学生等に向けてレファレンスサービスを広く周知することで、将来、図書館で調査研究をする際にレファレンスサービスの利用を思いつうように導いていく。	
II みんなが利用しやすい図書館へ	3 すべての人へ図書館サービスを届ける	適切	障害者サービスを知ってもらうために、市の担当部署と連携しながら、PRを続けていく。外国人コミュニティを調査し、直接アピールしていく。	貸出期間、貸出冊数については、和光市図書館の設備・所蔵環境を踏まえながら、今後、他市の状況も含め調査して欲しい。 多文化サービスとして、自治体が多言語の資料を収集することは、地域社会の公共施設が多様な価値観を受け入れていることに通じる。多文化サービス、高齢者サービス、障害者サービスの展開については、図書館だけではなく、様々な外部機関やその他の関係団体と連携を少しずつ積み重ねて欲しい。 子どもたちへの図書館活動は、図書館組織として、充実した内容・魅力的な活動を展開し、高く評価できる。なお、学校の調べ学習等に関しては、これから長期的視野において、図書だけでなく、デジタル資料や探し物データベースの充実・導入、そしてそれらをスムーズに使用するためにも図書館と学校図書館の連携が必要という視点が求められる。
	4 すべての子どもに読書の喜びを届ける	適切	「あかちゃんタイム」について、担当者同士でレパートリーや進行方法を共有して高めあう。分館「あかちゃんタイム」については、同じ曜日の同じ時間に近隣の他施設であかちゃん向け事業が行われていることも参加者減少の原因であると考えられる。周辺機関と連携し、お互いの事業を紹介しあうなど、周知に力を入れ、曜日や時間をずらす、会員制にするなどの工夫をこらす必要がある。 YA対象の市民図書館講座では、全校生徒へチラシを配り、中学校のアドバイザーや高校の図書主任の先生へ周知するなど、積極的なアピールをしていく。	
III 居心地の良い図書館へ	5 交流の場、居場所を創る	概ね適切	次年度に市内の読み聞かせボランティアをしている方向けのステップアップ講座を開催予定である。講座を通して、読み聞かせボランティアの技術の向上を計る。	ボランティアや図書館サポーターなどとの協力関係の積み重ねは評価できる。施設上の制約がありながらも、図書館の居場所としての在り方は非常に意義があり、今まで積み重ねてきたボランティアや図書館サポーターとの繋がりをさらに活かし、これまでのネットワークを持続的に発展させて欲しい。 職員の研修体制も充実し、個々の職員のスキルアップを大いに期待できる。施設の老朽化については、制約された環境下で、それを補う形で様々な図書館活動を引き続き行って欲しい。
	6 サービスを提供する基盤を整備する	適切	引き続き図書館施設の改修及び整備に努めていく。緊急的な修繕工事が出た場合は、補正予算を組むなど、図書館利用に影響が出ないように対応をしていく。 新本館建設の検討に関しては、市各部署と情報を共有していく。	

基本施策Ⅰ

和光らしさを意識した図書館へ

学びをつくる、
知る、

【施策Ⅰ】

図書館を介した学びの機会、和光市の文化を創る

(1) 地域特性に目を向け、課題を発見するお手伝いをし、地域の方とともに文化を創る。

(2) 地域資料と情報

【地域・行政資料の収集・保存・提供、市民に役立つ情報の提供】

事業の概要	(1) 地域特性に目を向け、課題を発見するお手伝いをし、地域の方とともに文化を創る。 ・地域を知り、課題を発見する ・地域の文化を創る
事業の成果	<u>地域を知る事業</u> ・本館では、和光市の郷土作家で風研究家の新坂和男氏にちなみ、市内の小学生親子を対象に風作り講座を実施した。講座の実施に併せて新坂氏の資料、風、絵画の展示を行い、地域の方々に和光市の郷土作家について知ってもらう機会を作った。 また、図書館まつりにて和光市出身の郷土作家である中島京子氏の講演会を開催し、1970年ごろの和光市や諏訪原団地、諏訪原文庫について知る機会を作った。 ・分館では、地域の歴史的な知識や理解を深めてもらうために、生涯学習課職員を講師として、講座「和光市域の災害史を学ぶ ～明治・大正時代を中心に～」を実施した。災害史のみならず、和光市の歴史にも触れる内容で、和光市の過去の出来事から現代に続く問題を知り、地域の未来を考える機会を作った。
事業の概要	(2) 地域資料と情報 【地域・行政資料の収集・保存・提供、市民に役立つ情報の提供】
事業の成果	<u>地域・行政資料の収集・保存・提供</u> ・市が発行した計画等を郷土資料として保存し、各課より依頼のあったパブリックコメントの募集や資料の掲示は館内掲示板で周知した。また、市民が所有している郷土資料は「和光市図書館地域資料収集方針」に基づき、寄贈等による受け入れを行い、資料の収集・保存・提供を行った。 ・市内団体が開催するイベント及び市内施設を会場とするイベントのチ

	ラシの配架やポスターの掲示を行うほか、郷土資料として当該資料のファイル保存を行い、市民に役立つ情報の提供を行った。 ・「和光市デジタルミュージアム」と連携し情報の提供を行った。 ・令和6年度図書館まつり講演会の「中島京子氏講演会」の講演録や同期間に開催した展示についての記録集を作成し、発行した。 ひとハコ図書館 ・市民や市内で活動する個人または団体を対象に、自身の活動のPRができる「みんなのひとハコ図書館」を実施し、市内の地域情報の発信をした。（展示団体：新倉小学校図書委員会、広沢小学校図書委員会、和光市図書館サポーター、小学生司書体験参加者）	
事業の課題と改善策	【課題】 ・地域課題のニーズを把握する。 ・郷土資料のデジタル化について検討していく必要がある。 ・和光市についての地図や情報をまとめたパスファインダーを作成する必要がある。 【改善策】 ・郷土資料のデジタル化に取り組んでいる他市図書館を参考に、担当内でデジタル化・パスファインダー作成にあたっての具体的な方法や、作業などの話し合いをする。	
図書館による評価（自己評価）	適切に行っている。本館・分館ともに「地域を知る事業」を開催することができた。郷土・行政資料の収集・保存については、行政資料や、市内団体からの発行物などを確認し、また、市役所各課に寄贈資料の呼びかけを行っている。 基本的に郷土資料は除籍しない方針だが、令和5年度に策定した収集や除籍に関する基準に添い、適切に管理することができた。	
図書館協議会による評価（外部評価）	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】 本施策について、着実な図書館活動の積み重ねをみることができ、評価できる。 地域資料、郷土資料などは、和光市の文化を創るという意味において、図書館が関わる可能性を大いに秘めていることから、持続的かつ積極的に活用して欲しい。

基本施策Ⅰ

和光らしさを意識した図書館へ

学びをつくる、
知る、

【施策 2】

資料、情報を収集し、保存し、提供する

- (1) 魅力ある蔵書構成で新たな利用者を獲得
- (2) 電子書籍【電子書籍導入の検討】
- (3) レファレンス（参考調査）サービスの活用

事業の概要	(1) 魅力ある蔵書構成で新たな利用者を獲得 ・魅力ある蔵書
事業の成果	<u>蔵書の充実</u> ・選書会議を定期的に行い、収集方針に基づき、リクエスト資料や買替資料等を含めた選書を行い、児童書に関しては、ある程度の評価が定まってから購入を検討し、良書を揃えるように努め蔵書の充実を図った。また、未所蔵の資料については、他の図書館から借用し、利用者の要望に応えた。 ・一般書、児童書の購入割合については予算に準じて購入している。また、洋書やバイリンガル図書、障害者用の図書、参考図書等もバランスよく購入するとともに、洋書・漫画・視聴覚資料については購入前にアンケート調査を実施し、利用者ニーズを把握することができた。 ・外国語資料は昨年度に続き大型書店で現物を見て選書を行うことができた。事前に利用者や学校関係者、英語関連事業の講師やボランティア等への購入希望アンケート調査も実施していたことから、需要のある分野の本や、リストには載っていない良書を見つけることができた。事業等でも紹介し、活用している。 ・YAコーナーではメディアで紹介されたり、中高生に人気の出版社から発行されている文庫本を購入したり、進路や職業選択に役立つような図書を中心に購入する等、10代の利用者に訴えかけられるような選書を行った。また、YAコーナーの棚を増設した。 <u>資料提供体制の充実</u> ・収集方針に基づき除籍した資料については、リサイクル資料として提供した。
事業の概要	(2) 電子書籍【電子書籍導入の検討】

事業の成果	・近隣3市との連絡会で導入状況、利用状況、課題等意見交換を行った。	
事業の概要	(3) レファレンス(参考調査)サービスの活用 ・レファレンス(参考調査)サービスのPR	
事業の成果	<u>レファレンスサービス</u> ・カウンターだけではなく、電話でのレファレンスも積極的に行った。令和6年度は26件の電話でのレファレンスに回答した。 ・分館では、パスファインダーの内容を更新し、レファレンスサービスや調べ学習の充実に努めた。 <u>レファレンス協同データベース</u> ・国立国会図書館レファレンス協同データベースに26件の調べ方マニュアルを一般公開している。その被参照数は、令和4年度は4,396件だったが、令和5年度は9,939件、令和6年度は18,871件と年々増加している。	
事業の課題と改善策	【課題】 ・電子書籍導入に関する予算要求を財政当局に行ったが、不採択に至った。また、朝霞地区四市図書館連絡会で、各市の利用状況を含め、情報交換を行った。 ・日々受けるレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに積極的に登録、蓄積し、レファレンスサービスの向上に励んできた。今後は一般公開事例を毎年増やしていく。 【改善策】 ・電子書籍導入に関して、引き続き予算要求を行っていく。 ・レファレンスサービスについて図書館だよりで特集を組んだり、図書館ホームページやX(旧 Twitter)で紹介する等して周知する。 ・図書館見学に来館した小学生や職場体験に来た中高生、インターンの大学生等に向けてレファレンスサービスを広く周知することで、将来、図書館で調査研究をする際にレファレンスサービスの利用を思いつくように導いていく。	
図書館による評価(自己評価)	概ね適切に行っている。図書資料等の収集・保存については、引き続き図書館資料収集方針に則り、適切な資料収集を行っていく必要がある。	
図書館協議会による評価(外部評価)	1 適切である <u>2 概ね適切である</u> 3 不十分である	電子書籍の導入については、非来館者の利用も望め、読書普及への期待もあるため、引き続き財政当局に予算要求をして欲しい。 来館者が質問しやすいように、今まで和光市図書館が解決したレファレンス事例を掲示するなど、来館者の興味・関心など背中を押すような仕

	掛けがあってもよい。
--	------------

基本施策Ⅱ

みんなが利用しやすい図書館へ

資料と市民を
つなぐを

【施策3】

すべての人へ図書館サービスを届ける

- (1) 図書館サービスのPR【利用者拡大への働きかけ、利用案内】
- (2) 障害者サービスの充実
- (3) 高齢者へのサービス
【高齢者向け資料の充実、認知症にやさしい図書館、
ホームページの利用の案内】
- (4) 国際理解、外国人の暮らしに役立つサービス

事業の概要	(1) 図書館サービスのPR【利用者拡大への働きかけ、利用案内】 ・利用者拡大への働きかけ ・利用案内
事業の成果	<u>図書館サービスのPR</u> ・図書館システムの更新に伴い、ホームページをリニューアルし、わかりやすい利用案内や、情報を見つけやすいように改善した。 ・中央公民館図書室をリニューアルし、子育て世代や中高生が利用しやすい資料を揃えた。 ・本館、分館でのブックスタートに加え、来館が困難な方や対象日に参加できなかった方へのフォローとして、北子育て世代包括支援センター、北第二子育て世代包括支援センター、南子育て世代包括支援センター、和光市総合児童センターで出張ブックスタートを実施した。 また、健康増進センターで10か月健診日にブックスタートフォローを実施した。市内公共施設で出張ブックスタートやブックスタートフォローを実施することで、自宅が図書館から遠い方やまだ図書館を利用したことがない方に向けて図書館サービスをPRし、図書館利用者拡大への働きかけを行った。 (本館) ・10月26日(土)27日(日)に図書館まつりを開催した。和光市出身の作家である中島京子氏をお招きして「中島京子氏講演会」を開催した。また、図書館の内外で長年読み聞かせを実施しているボランティア団体「和光絵本とお話の会」の創立40周年記念おはなし会を、子ども向けと大人向けの2部制で開催した。地域の方々や会の関係者など多くの人が来場し、読み聞かせや素話を楽しんだ。 (分館) ・下新倉分館、下新倉児童館、下新倉学童クラブ共催のふれあいまつり

	を開催し、おはなし会とバルーン配布を行った。 ・下新倉小学校、下新倉児童館、下新倉学童クラブ、周辺自治会と協力して、下新倉地域のおまつりとして下新倉サマーフェスタを開催し、分館は「図書館の紙芝居屋さん」を行った。ボランティアの協力を得てボードゲームも実施した。 情報発信 ・図書館だよりを12回発行し、市内各施設や市内高校に設置した。 ・図書館ホームページ、図書館X(旧Twitter)で情報を発信した。 利用案内 ・利用案内については、窓口や電話で利用者からの問い合わせが多い項目を見直した。また、「Web利用者カード」については、図書館ホームページのトップに重要なお知らせとして掲載し、利用の促進を図った。
事業の概要	(2) 障害者サービスの充実 ・図書館内の障害者サービスの充実 ・図書館外の障害者サービスの充実
事業の成果	障害者サービス ・令和6年度は、郵送貸出サービスは19件、デージー再生機貸出サービスは6件と、それぞれ利用する人が徐々に増えており、障がい者サービスの新規登録が5件あった。また、対面朗読を行っていただくボランティアに向けての音訳者養成講座も引き続き年6回行っており、レベルアップに努めていただいている。 ・対面朗読、郵送貸出サービスについてPRする名刺サイズの手紙を作成し、配布を行った。 啓発展示 ・分館では、通常の紙の読書が困難になった時や身近な人が読書を諦めようとしている時に思い出してもらうことを目的として、9月から3月までの7か月間、月ごとにテーマを決めて連続展示企画「すべての人に読書の楽しみを！」を行った。和光市図書館の障害者サービスの紹介をはじめ、「点字つき絵本の出版と普及を考える会」のパネル展示、様々な形態の資料の紹介、マルチメディアデージー体験会などを実施し、障害者サービスをより身近に感じてもらえるよう工夫した。
事業の概要	(3) 高齢者へのサービス 【高齢者向け資料の充実、認知症にやさしい図書館、ホームページの利用の案内】
事業の成果	高齢者向け事業 ・本館では、市民図書館講座「身体を使って楽しく脳活！誰でもできる『シナプソロジー』」を実施した。2つのことを同時に行ったり、左右で違う動きをする等の普段はしない動きをすることで脳を活性化させ、認知

	症予防を行う方法を学んだ。その際にシナプソロジーや認知症予防に関連する図書を紹介した。 ・分館では、「音読で毎日元気～みんなで読みあいを楽しもう～」を実施した。口腔体操や表情筋体操、発声練習や文学作品を教材として音読を行うことにより、声を出すことの大切さや効用を知っていただいた。また、健康づくりに役立つ情報や関連本を紹介、ブックリストの配布をし、図書館の利用を促した。 <u>ホームページの利用の案内</u> ・「図書館の本をスマホでらくらく予約しよう」講座は、1対1の対面方式で、インターネット予約に関して参加者が納得するまで説明を行った。日常業務でも講座と同様の案内を行った場合は記録している。(講座参加者10名・カウンター受付19件)質問内容から図書館ホームページの改善点を見つけて改訂に活かすことができた。講座の参加者はインターネットに不慣れな方が多いため、講座回数を増やすなど対策を検討していく。
事業の概要	(4) 国際理解、外国人の暮らしに役立つサービス ・役立つ資料の充実
事業の成果	<u>国際理解についての事業</u> (本館) ・ボランティアサークル「Wonder Club」による英語絵本の読み聞かせを5回行った(「図書館まつり」での開催を含む)。英語絵本の読み聞かせだけではなく、英語の歌を歌って、振付を皆で覚えて踊り、親子で楽しんでもらえた。歌を歌うときに「Wonder Club」のメンバーが「この歌はこういう歌です。」と、歌の背景にある外国の文化を教えてくれるので、子ども達の国際理解のきっかけ作りにもなった。 (分館) ・英語おはなし会「Peek'n See!」の開催回数を、令和5年度の3回から令和6年度は4回に増やした。英語絵本の読み聞かせだけでなく、外国の様々な文化を紹介し、関連本の展示や工作も行い内容も充実させた。 <u>サービスの充実</u> ・令和5年度から、ブックスタートへの外国人親子の参加率向上のため、やさしい日本語版のポスターとチラシを作成し、保護者が外国人の家庭に送付するチラシを令和5年10月以降やさしい日本語版に切り替えた。図書館ホームページにも掲載して周知を行ったことで、令和6年度は外国人のブックスタート参加があった。 ・市のホームページに多文化コーナーに新しく入った本のお知らせを掲載した。

	・市内小学校への外国人児童の入学や転入が増え、学校や利用者から具体的な言語を指定した外国語資料の購入リクエストが来ている。令和6年度は要望に基づき、アラビア語、スペイン語、ポルトガル語等の児童書を購入した。	
事業の課題と改善策	【課題】 ・障害者サービスについては、利用されている方が限定的な面があり、また現在の登録者数も22件となっており、図書館の障がい者サービスが知られていないのが現状である。 ・市内に住む外国人への洋書コーナー、多文化コーナーのアピールが十分でない。 ・引き続き、利用者拡大の働きかけをしていく必要がある。 【改善策】 ・障がい者サービスを知ってもらうために、市の担当部署と連携しながら、PRを続けていく。 ・外国人コミュニティを調査し、直接アピールしていく。	
図書館による評価（自己評価）	適切に行っている。 なお、図書館サービスについては、引き続き各サービスについてのPRを続けていく。	
図書館協議会による評価（外部評価）	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】 貸出期間、貸出冊数については、和光市図書館の設備・所蔵環境を踏まえながら、今後、他市の状況も含め調査して欲しい。 多文化サービスとして、自治体が多言語の資料を収集することは、地域社会の公共施設が多様な価値観を受け入れていることに通じる。多文化サービス、高齢者サービス、障害者サービスの展開については、図書館だけではなく、様々な外部機関やその他の関係団体と連携を少しずつ積み重ねて欲しい。

基本施策Ⅱ

みんなが利用しやすい図書館へ

資料と市民を
つなぐを

【施策4】

すべての子どもに読書の喜びを届ける

- (1) 本と出会うきっかけづくり
【乳幼児と保護者が本に親しむきっかけづくり、青少年（中高生含む）が本に親しむきっかけづくり】
- (2) 第4次和光市子ども読書活動推進計画の推進

事業の概要	(1) 本と出会うきっかけづくり 【乳幼児と保護者が本に親しむきっかけづくり、青少年（中高生含む）が本に親しむきっかけづくり】
事業の成果	<u>乳幼児～小学生向け事業</u> 「ブックスタート」 ・生後4か月のあかちゃんと保護者を対象に絵本の読み聞かせやわらべうた、図書館のあかちゃん向け事業の紹介を行った。その場で図書利用券の作成もできるので、ブックスタート参加後に本を借りて帰る方もいた。はじめて図書館を利用した方も多く、乳幼児と保護者が本に親しむきっかけづくりに繋がった。 - また、ブックスタートへの参加をきっかけに「あかちゃんタイム」や「あかちゃんと楽しむ絵本をわらべうた」等他の図書館事業への参加にも繋がった。 ・さらに、来館が困難な方や対象日に参加できなかった方へのフォローとして、健康増進センターで10か月健診実施日に「ブックスタートフォロー」を行い、まだ絵本を受け取っていない方へ絵本をお渡しした。 「あかちゃんと楽しむ絵本とわらべうた」 ・令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に引下げられたことを受け、定員制を撤廃していたが、令和6年度より事前申し込みも撤廃し、より参加しやすい環境を整えた。 - また、本館・分館とも来年度に向けての利用者アンケートを実施し、事前申込制の有無やマスクの着用についての検討を行った。 「あかちゃんタイム」 ・乳幼児とその保護者の『絵本やわらべうたとの出会いの場、及び交流の場』を提供した。当事業は申し込み不要・出入自由とし、興味を持たれた全ての方を受け入れている。プログラムにゆとりがある場合は参加者

のリクエストに応じたり、好評だった題目のアンコールを行うなど柔軟に対応し、あかちゃんが心地よく過ごせるように工夫した。

参加者交流の面では、話が弾むように職員から話題を投げかけたり、個別に読書相談にのるなど、育児に関する情報収集や本に関する疑問点を解消できるようにアプローチをした。あかちゃん事業に興味を持つ層へのダイレクトPRとして、結びの挨拶では他のあかちゃん事業への参加も呼びかけている。また、X(旧Twitter)での告知も令和5年度から継続して行っている。読み手に加えて記録もカウンター担当職員が加わり、担当者全員で順番に担当している。

「土曜のおはなし会」

・本館では、読み聞かせ経験豊富なボランティア団体による、第1～3土曜日のおはなし会に加え、季節感のある「七夕おはなし会」「クリスマスおはなし会」を実施し、多くの親子に絵本の読み聞かせを楽しんでもらった。小学生以上を対象とした「世界おはなしめぐり」では、外国の物語によって子どもたちの想像力を養うとともに、異文化への興味、関心を高める機会となった。本館では土曜日のイベントとして定着しており、リピーターを生み出している。

「土曜えほんタイム」(本館)

・第4、第5土曜日に本館にて実施し、本と子ども達が出会う場を提供した。読み聞かせした絵本は借りて帰ることができるので、子ども達が好きな絵本を選んで借りて帰る姿が見られた。

・「子どもの科学」

・小学生を対象に本館・分館あわせて3回実施した。テーマにそった科学遊びのあと、優れた科学読み物を紹介して貸出を行った。また、往復はがきでの申し込みを止め、メールでの申し込みに変更し、申し込みしやすい環境を整えた。

「ぶっくわーど」

・小学生を対象に本館・分館あわせて3回実施した。本についての造詣が深い講師を招いて良書を紹介してもらった。参加した児童は、普段読まないようなジャンルの本にも興味を示してくれて、講師が紹介した本をたくさん借りていってくれた。この流れを次年度にも繋げていきたい。

「夏休み宿題教室」

・市内小中学校の教員の5年次研修として、読書感想文等の児童の宿題サポートやカウンター業務、推薦図書の紹介文作成等を行ってもらうと共に、図書館の役割や図書館と学校の連携について説明を行い、相互理解を深めた。

「図書館のおしごと体験」(本館)

・市内小学校4～6年生を対象に実施した。本探しや普段はできないカ

ウンターでの貸出・返却業務を体験してもらうことで、図書館を身近に感じてもらうことができた。また、カリキュラムを記載した冊子を配布し、作業内容のメモ取りよりも、ここでしか出来ない体験に注力できるよう配慮をした。

「夏休み子どものつどい」(本館)

・普段からよく図書館に来てくれている子どもだけでなく、なかなか図書館に足を運ばない子ども達にも夏休みという機会を利用して図書館に来てもらいたいということで毎年開催している事業である。令和6年度も3つのボランティアサークル協力のもと、普段の読み聞かせでは行わない影絵やペープサート等を行った。

「絵本とおはなしの会」(分館)

分館では、個人ボランティアと職員で協力し、令和5年度は年8回だったところ、令和6年度は全11回(8月を除く毎月)実施し、本と子ども達が出会う場を提供した。

「ひまわりおはなし会」(分館)

・引き続き下新倉分館と下新倉児童館での交互開催を行うことで、普段図書館を利用していない児童館利用者や、下新倉学童クラブの児童にも本との出会いの場を提供した。

「ぬいぐるみのおとまり会」(分館)

・ぬいぐるみと一緒に話を聞いたあと、館内を見学。預かったぬいぐるみが館内で過ごす様子を写真に撮り、お迎え時にアルバムをつくった。図書館に親しみを持ってもらうことができた。

「夏休み自由研究のタネ」(分館)

・「司書体験」も実施し、児童が図書館の業務を行うことで図書館を身近に感じてもらうことができた。

「市民図書館講座クリスマス工作」(分館)

・講師によるパステルを使ったクリスマスカード作り講座と職員による絵本の読み聞かせ、関連本の展示を行った。親子で参加して楽しんでもらうことができた。

中高生向け事業

「ビブリオバトル」(本館)

・市内中学生にバトラー(発表)を、和光国際高校の生徒にデモンストレーションをしてもらうことで、本を読んだ感想を語り合い、青少年が本に親しむきっかけづくりを行った。

・市民図書館講座にて「キャラクターイラスト講座」を開催し、キャラクターの表情の描き方やミニキャラの描き方を学び、実践した。また、イラストの描き方の本などの関連本を展示し、本を読むきっかけを作った。

	「図書館クラブ」(分館) ・「お楽しみ読書バッグづくり」として、英字新聞のエコバッグとおすすめ本を選んでタグを作成した。また、新年に本の福袋として、利用者に提供し、貸出の促進につなげた。 ・「図書館司書体験」(分館)として、館内整理日(休館日)にしか出来ない作業を体験してもらった。利用者に手に取ってもらえるよう想像しながら、書架や書庫にある資料の整理や展示物の入れ替え、本の修理などを行い、日ごろの図書館業務に興味を持ってもらえるよう工夫した。
事業の概要	(2) 第4次和光市子ども読書活動推進計画の推進 ・3つの基本方針に基づく計画の推進
事業の成果	・環境整備、連携、啓発の観点から、図書館アドバイザーに対しては、年3回行われている定例研修会の他に、図書館で開催している職員研修会への参加を促した。皆、熱心に参加してくれた。 ・各学校で活動する保護者ボランティアに向けては、学校図書館アドバイザーと連携して図書館で開催する「ボランティア交流会」への参加を呼び掛けた。交流会では、図書館で活動中のボランティア団体によるデモンストレーション、グループディスカッション、ブックリスト配付、会員募集のチラシの配布等を行い、活発な意見交換の場となった。 ・下新倉分館においては、引き続き隣接する下新倉小学校と連携し、朝の読み聞かせへの図書館職員の参加や、授業内での図書館利用、休み時間貸出、長期休暇(夏休み・冬休み)前の図書の貸出、テーマ本(調べ学習授業用)の他に依頼テーマ資料の月間貸出、教員向けとして職員室への教育関連資料の貸出を実施し、読書に親しむ機会や場の提供を行った。 また、学力向上に向けての取組として、過去の子ども新聞・中学生新聞の貸出、小学生のための調べかた案内と情報ファイルの整備と提供を行い、図書資料を使った学習活動の推進を図った。
事業の課題と改善策	【課題】 ・「あかちゃんタイム」について、おはなし会の内容は大まかに均一化されている。昨年度から回を重ねる毎に参加者が増え、会場に入りきらずに参加を諦める親子も見られた。 ・分館の「あかちゃんタイム」の参加者が減っている。 ・YA 対象の市民図書館講座は YA 世代が勉強や部活で忙しく図書館へ訪れる機会が少ないため、事業の周知が難しい。 ・「図書館のおしごと体験」(本館)については、子どもによって進捗に差が出がちなので、全体を気持ちよくまとめる指導力が求められている。 【改善策】

	・「あかちゃんタイム」について、担当者同士でレパートリーや進行方法を共有して高めあう。 ・これ以上人数が増えるようであれば、同じ内容で2部制にするなど検討をする。 ・分館「あかちゃんタイム」については、同じ曜日の同じ時間に近隣の他施設であかちゃん向け事業が行われていることも参加者減少の原因であると考えられる。周辺機関と連携し、お互いの事業を紹介しあうなど、周知に力を入れ、曜日や時間をずらす、会員制にするなどの工夫をこらす必要がある。 ・YA 対象の市民図書館講座では、全校生徒へチラシを配り、中学校のアドバイザーや高校の図書主任の先生へ周知するなど、積極的なアピールをしていく。 ・「図書館のおしごと体験」(本館)については、特にブッカーかけで進捗の差が顕著となる。担当者は全体を見渡し、受け持ちの子どもに合わせて、本人が楽しくすごせるようなフォローを心がける。	
図書館 による評価 (自己評価)	適切に行っている。 「あかちゃんタイム」については、複数の母親が誘い合わせて参加している姿が見られ、地域に受け入れられている。また、担当者の技量に依る所が多いイベントなので、常に自己研鑽を行っていく。	
図書館協議会 による評価 (外部評価)	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】 子どもたちへの図書館活動は、図書館組織として、充実した内容・魅力的な活動を展開し、高く評価できる。 なお、学校の調べ学習等に関しては、これから長期的視野において、図書だけでなく、デジタル資料や探し物データベースの充実・導入、そしてそれらをスムーズに使用するためにも図書館と学校図書館の連携が必要という視点が求められる。

基本施策Ⅲ

居心地の良い図書館へ

資料と人との
出会いの

【施策 5】

交流の場、居場所を創る

- (1) 居場所としての図書館【設備の改善・充実、居場所づくり】
- (2) 本を通じた出会いの場、図書館
【出会いの仕組みづくり、利用者が本の感想等を発信】
- (3) 地域活動との連携
【地域で活動する団体・企業・商店・関連施設・公共施設との連携、読み聞かせなどのボランティア支援】

事業の概要	(1) 居場所としての図書館【設備の改善・充実、居場所づくり】
事業の成果	・中高校生を対象に、テスト期間前の土曜日、日曜日、祝日の事業がない時間帯に会議室を自習室として開放した。また、夏休みには対象を広げ、会議室が空いている日に限り、小学生から高校生へ会議室を自習室として開放し、子どもたちの居場所づくりを行った。 ・図書館システムの更新に伴い、本館会議室のWi-Fi利用が可能となった。
事業の概要	(2) 本を通じた出会いの場、図書館 【出会いの仕組みづくり、利用者が本の感想等を発信】
事業の成果	本を通じた出会いの場 「図書館シネマ」(本館) ・DVD上映会を行った。(大人向け、子ども向け各一日)様々な文化活動の場として、図書館を広く利用して頂くことで、身近な場所であると市民に感じてもらうことを目的として行い、参加者から高評価を得た。 「大人のための朗読劇場」(本館) ・本館で2回、朗読のボランティアサークル「朗読の会あめんぼ」により開催した。質の高い朗読劇を見ることで朗読や読書への関心を高めてもらうことを目的とした事業だが、熱心に練習を重ねた朗読劇は毎年大好評で、毎回来場している常連もいるほどである。終了後には関連図書が借りられていく等の効果が見られている。終了後しばらくは関連図書のコーナーを作っているのだが、終了からしばらくたってもなお、利用者に借りられていっている。 「本の福袋」 ・本館は、合計28セット(幼児～大人向け)作成し貸出をした。そのうち図書館サポーターに12セット分の選書と袋の作成をしてもらった。今後とも様々な方法で利用者参加型を推進していく。

	・分館は、合計40セット(幼児～大人向け)を作成し貸出をした。そのうちの7セットは、図書館クラブ事業で中高生が作成した。 「ビブリオバトル」(本館) ・市内高校生にバトラーとして発表をしてもらうことで、本を読んだ感想を語り合い、人と人とのつながりができる場を提供した。 「おとなの朗読会」(分館) ・リピーターの参加を呼び込むため、希望者には事前にメールでの開催告知を行うと共に、新規参加者の開拓には、LINEやXなどSNSでの情報発信にも務めた。 「図書館サポーター」(本館) ・6月・8月・10月(3回)・12月・2月に参加を募り、本のカバーかけや修理、書棚整理、本のシール貼り替えなどの研修と活動を行った。その他「おすすめ本のPOP作り」(希望者のみ)「福袋用の新聞バッグ作成」「図書館まつり」の準備や当日のリサイクル本配布や雑誌付録のくじ引きの補助活動を行った。
事業の概要	(3) 地域活動との連携 【地域で活動する団体・企業・商店・関連施設・公共施設との連携、和光市立小・中学校地域学校協働本部との連携、読み聞かせなどのボランティア支援】
事業の成果	<u>ボランティア支援・和光市立小・中学校地域学校協働本部との連携</u> 「ボランティア交流会」 ・昨年度に続き、図書館で活動している団体によるデモンストレーションを行い、普段は見ることのない他団体の活動を実際に見る機会を作った。刺激を受けた参加者が他の読み聞かせ活動に参加する等新たな結びつきを生み、ボランティア活動の活発化に繋がった。 「学校読み聞かせボランティア養成講座」 ・読み聞かせの基礎と実践について学んでもらい、講座後は図書館の新規読み聞かせボランティアが増加した。また、和光市立小・中学校地域学校協働本部と連携し、講座終了後に市内小中学校での読み聞かせボランティアを募ったところ、複数の希望があり、市内小中学校で読み聞かせボランティアの増加にも繋がった。さらに、講座参加者が市内小中学校読み聞かせボランティアの自主勉強会に参加するなど、読み聞かせボランティア支援に繋がった。 <u>地域活動との連携</u> 「ひまわりおはなし会」(分館) ・引き続き複合施設内の下新倉児童館と下新倉学童クラブと連携し、児童館と交互開催を行い、児童館来館者や下新倉学童クラブの児童が参加した。

	「下新倉小学校との連携」(分館) ・朝の読み聞かせへの分館職員参加(月2回各2名ずつ)では、教職員や児童、保護者との交流の機会にもなっている。 また、下新倉小学校からの要望による、児童の学力向上に向けた取組として、令和5年10月から毎週水曜日に分館から過去の子ども新聞・中学生新聞の貸出を、引き続き継続し連携を行っている。 「音読で毎日元気～みんなで読みあいを楽しもう～」(分館) ・市内在住者で地域で活動する講師(NPO法人)を招いて、音読講座を開催し、健康づくりや参加者同士の交流の場を作った。 <u>市役所との連携</u> ・企画人権課「和光市版スーパーシティ構想」の紹介(本館) ・健康支援課「こころの健康づくり」テーマ本展示(本館、分館)	
事業の課題と改善策	【課題】 ・読み聞かせボランティアとして活動している方の大半は独学で読み聞かせについて学んでいるため、技術にばらつきがある。読み聞かせの基本的な技術や、なぜ読み聞かせをするのかなどを知らない方が多いため、読み聞かせボランティアの技術の向上が必要と思われる。 【改善策】 ・令和7年度に市内の読み聞かせボランティアをしている方向けのステップアップ講座を開催予定である。講座を通して、読み聞かせボランティアの技術の向上を計る。	
図書館による評価(自己評価)	概ね適切に行っている。学校・地域やボランティアと連携するなど、資料と利用者の出会いや、人と人とのつながりの場を提供することができた。	
図書館協議会による評価(外部評価)	1 適切である <u>2 概ね適切である</u> 3 不十分である	【評価コメント】 ボランティアや図書館サポーターなどとの協力関係の積み重ねは評価できる。施設上の制約がありながらも、図書館の居場所としての在り方は非常に意義があり、今まで積み重ねてきたボランティアや図書館サポーターとの繋がりをさらに活かし、これまでのネットワークを持続的に発展させて欲しい。

基本施策Ⅲ

居心地の良い図書館へ

資料と人との
出会いの

【施策 6】

サービスを提供する基盤を整備する

- (1) 本館老朽化への対応【新館建設の検討、大規模修繕】
- (2) 職員研修【図書館サービスに関する専門的な研修】
- (3) 図書館運営の点検評価【図書館協議会】

事業の概要	(1) 本館老朽化への対応【新館建設の検討、大規模修繕】
事業の成果	・令和7年2月に、多目的トイレの改修工事を行い、便器周りの足場の解消、ユニバーサルシートの設置、手洗器設置等を行った。 ・新館建設場所については、市の施設担当や他部署と連携をしながら検討している段階である。
事業の概要	(2) 職員研修【図書館サービスに関する専門的な研修】
事業の成果	・埼玉県立和光国際高等学校の学校図書館の司書である宮崎健太郎氏を講師に招き「高校図書館における活動と読書支援について」という講座を開催した。参加者は市教育委員会職員、市内学校教諭、学校図書館の図書館アドバイザー、和光市図書館本館及び下新倉分館職員の併せて47名だった。高校の学校図書館という現場で高校生に対して読書支援を行っている講師から実際に行なっている様々な取り組みや工夫を伺い「読書離れが加速していく小学生に読書指導をしていくにあたり、これからの図書館はどのような視点が必要か。」ということを学んだ。 ・児童サービス研修、公共図書館職員研修、公共図書館長研修、障害者サービス研修、参考調査研修、地域資料研修等計画的な職員研修を実施し、図書館サービスに関する知識を深めることができた。またオンライン研修等、職員が自主的に研修に参加し、スキルの向上が図られた。 ・職場からの派遣ではなかったが、自主的に司書講習を受講し、1名の方が司書資格を取得した。
事業の概要	(3) 図書館運営の点検評価【図書館協議会】
事業の成果	・令和6年度第1回は、令和5年度の図書館サービス計画に関する評価を行い、審議してもらった。また、第1回から第3回を通して、昨年度から引き続き、「これからの図書館のあり方について」を審議してもらった。 - 図書館協議会の審議内容は図書館ホームページ、市のホームページに掲載し、市民への周知を図った。

事業の課題と改善策	【課題】 ・本館は開館から40年以上が経過しており、館内の至る所に老朽化の影響がみられる。そのため、現有施設設備を維持していくことが重要である。 ・図書館は他の商業施設との共有建物となっており、共有部分に関しては、他の商業施設との連携を取りながら、修繕工事を進めていく必要がある。 ・新本館建設の検討に関しては、和光市という狭い土地の中で場所を確保していくためには、市各部署と連携とりながら進めていく必要がある。 【改善策】 ・引き続き図書館施設の改修及び整備に努めていく。 ・緊急的な修繕工事が出た場合は、補正予算を組むなど、図書館利用に影響が出ないように対応をしていく。 ・新本館建設の検討に関しては、市各部署と情報を共有していく。	
図書館による評価 (自己評価)	適切に行っている。図書館施設等の保全については、予防的保全にかかる予算を確保することが困難であるため、施設・設備に修繕等の必要が生じた際は、その都度補正予算等で対応せざるを得ないのが現状である。施設の老朽化による影響が随所に見られるため、現状の状態を維持及び新本館建設を市各部署と情報を共有していく。	
図書館協議会による評価 (外部評価)	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】 職員の研修体制も充実し、個々の職員のスキルアップを大いに期待できる。施設の老朽化については、制約された環境下で、それを補う形で様々な図書館活動を引き続き行って欲しい。